

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年4月10日
学校法人聖カタリナ学園

| | |
|------|-------------------|
| 幼稚園名 | 聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園 |
| 園長名 | 藤井 澄子 |

1. 本園の教育目標

【基本方針】

聖カタリナ学園の目標である『人格形成の礎となる重要な幼児期教育の実践者であることを自覚し、幼稚園教育要領を踏まえながら、小学校との接続を見据えた質の高い前期初等教育を提供する。また、未就園児を含む園児とその保護者を対象とする活動に積極的に取り組み、地域の関係機関と連携・協力しながら、子ども・子育て支援機能を果たしていく』を念頭に、本園では、

- カトリック幼稚園として「こころの教育」を育み、祈りの伝統を守りつつ見えないものへの畏敬の念や感謝の心を育む。
- 5クラス編成(2歳・満3歳・3歳・4歳・5歳)の縦割り、横割り保育の併用により、異年齢の子ども同士の思いやりや優しい心を育む。
- 大学の教育実習施設としての機能を果たしながら、附属幼稚園として人的物的環境を活かし、専門教育を織り込んだ遊びを展開しながら教育力を高め、地域での幼児教育の拠点となれるように、園の存在や知名度を上げる。

【教育目標】 やさしい心、 祈りの心、 感謝の心を育てる

【目指す子どもの姿】

- 明るく生き生きとした子ども
- 神の恵みに感謝し、「ありがとう」と「ごめんなさい」が素直に言える子ども
- 良心の声に従って自ら行動できる子ども
- よく聞き、よく見、よく考えてやりとおす子ども
- だれとでも仲良く遊べる子ども

【教師像】

- 神に祈り、愛情・謙虚・忍耐を持って自己完成に務める教師
- 心身ともに健康で豊かな教育技術を磨き、研修実践を積極的に推進する教師
- 集団生活を通じて人間関係を育み、自主性・社会性・創造性の伸長を図ることができる教師
- 子どもをよく観察し、子ども自身から学び取る教師
- 幼児の内面的な生命を尊重し一人一人の可能性を伸ばしていこうとする教師
- 「一人ひとりがたからもの」をモットーに個人差に留意しながら心身の発達の助長を図り、安心して園生活を過ごすことができるよう楽しい経験の場としての生活環境を整えることができる教師

2. 令和3年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 教育課程のさらなる充実
 - ② 園児募集力の回復
 - ③ 保護者満足度の向上
 - ④ 安全対策の見直し
- (追加項目) 新型コロナウイルス感染対策を検証する

3-1. 評価項目の達成及び取り組み状況（本年度の重点目標）

| 評価項目 | 結果 | 取り組み状況 |
|--|-----------------|--|
| <p>① 教育課程のさらなる充実</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統を受け継ぎ、「こころの教育」を推進し、園児自らが自分の言葉で祈ることができるようにしていく。 ・モンテッソーリ教育と宗教カリキュラムを有機的に採り入れた本園独自の教育課程を再構築する。 | <p>B</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで「心の教育」を継続推進し、伝統の園生活習慣から「感謝の心」や「優しい心」が育ち、年長児は自分の言葉で友達のために祈ることができるようになってきた。 ・教育課程を見直していく過程で、モンテッソーリ教育と宗教カリキュラムを有機的に取り入れた独自の教育課程を模索したが、確立されたメソッドを部分的に用いることは難しかったのでそれは断念し、幼稚園教育要領と本学園姉妹園の教育課程を参考に本園の教育課程を見直した。宗教カリキュラムは継続し、年間を通して神父やシスター方の講話を聞くことができた。 <p>【教育課程の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教員が縦割りと横割りの関わりからの子どもの育ちを見据え、見通しを持った教育ができるよう各学年の年間指導計画を見直した。 ・小学校への接続を念頭に、「10の姿」につながる子どもの活動や思考を日々の振り返りで書き留めることを継続し、一人一人の育ちを確認していった。 ・遊びの継続を大切にしながらメリハリのある教育活動となるよう、縦割りや横割り保育の中で、計画に静と動を織り交ぜ、子どもが集中できる時間帯を作るようにした。 ・配慮の必要な園児に対し、支援施設指導員の指導内容を各教員で共有し、園児への対応を一本化した。 ・保護者との連携において園や家庭での様子を交換し合い、園児が負担感なく過ごすことができる園環境を維持した。 ・教員の自己評価より、教育課程の内容を日々の指導計画にどの程度反映できているのか、また、その内容が実行されて |

| | | |
|--|----------|---|
| | | <p>いるかどうかを今後検証し、互いの学び合いからキャリアアップを図っていくことが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度もコロナ禍での園生活を余儀なくされ、様々な活動の縮小や中止をせざるを得なかったが、感染対策を講じながら学びの保障を確保できるよう、全教員で取り組んだ。 |
| <p>② 園児募集力の回復</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、3歳児が4名となり、年長1名の入園を合わせて41名からのスタートであった。 令和3年度は19名が卒園するため、令和4年度の入園児数をこの数に近づけなければ園児総数が減じていく。 新制度での利用定員を45名としたが、この人数を確保できるよう令和4年度の募集対策に力を入れていく。 | C | <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は総園児数39名からのスタートとなる。 令和3年度より2歳児の受け入れを開始して1名が入園し、12月に満3歳の誕生日を迎えその成長に目を見張るものがあった。 令和4年度の3歳児入園予定数は3月日末現在10名となり、目標の15名には届かなかった。 <p>令和4年度の3歳児が10名となった分析として、</p> <ul style="list-style-type: none"> 本園は学校としての教育施設であり、行事等の振替休園の際には保護者の就労に支障が出る場合がある。 2歳になれば働きたいと思っている家庭が増加しつつある。 子ども数が減じ就学後を見通して校区内の園を選択する地域性が根強い。 認定こども園は0歳から入園を受け入れ、3歳になって慣れた環境から幼稚園に転園したいと考える家庭がほほえない。 近隣の幼稚園はすべて認定こども園に移行し、幼稚園は本園のみである。 <p>今後の対策として</p> <ul style="list-style-type: none"> 2歳児、満3歳児の受け入れを積極的に宣伝する。 幼稚園では満3歳になった日から無償化の対象になることを周知していく。 小規模園だからこそできる丁寧な対応を周知し、附属幼稚園として大学との連携による教育力をアピールしていく。 幼稚園生活で園児一人ひとりが自信を身につけて就学できる道筋を今後も維持し、幼稚園の良さを周知していく。 施設訪問指導員から、「全園児に対して一人ひとりの個性を活かした教育ができており、特に困り感を持つ子どもに対して丁寧な対応ができる園」との評価があり、これをアピールする。 松山市北部から通園可能であることを知らしめ、園バスを利用できることを周知していく。 令和4年度の利用定員を45名としこれに近づけるよう、入園募集を継続して努力していく。 |
| <p>③ 保護者満足度の向上</p> | B | <p>【保護者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続課題であった保護者アンケートの内容を見直し、令和3年度はITCによる回答方法で実施した。 ICTの導入により、保護者への連絡等を瞬時に実施すること |

| | | |
|--|----------|---|
| <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続課題である保護者アンケートの内容を見直し、園の現状把握と改善につながるよう、質問内容を改定する。 ・保護者アンケートの回答（特にクレームや要望）に対し、対応内容や園の方針を公表する等、丁寧な対応に留意する。 | | <p>ができ、コロナ禍による急な連絡にも対応できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート内容を、本園の「目指す子どもの姿」を中心にし、回答しやすい内容に見直した(資料 4①②参照)。 ・アンケート回答率は 90%で昨年度の 72%より上昇し、自由記述も増えた。 ・各項目の中で、「子どもの育ち」と「悩みを気軽に相談できるか」「保護者と話をする機会を作っているか」の問いに対しては、ほぼ満足の回答を得られ、保護者とのコミュニケーションについては評価をいただけたのではないかと思います。 ・「大学との連携」や「ホームページの発信」については C(やや不十分である)の回答が 10%あり、今後の課題である。 ・給食についての意見が多くあり、今後管理栄養士とも相談をして改善策を検討していく。 ・園児募集に対する多くの貴重な意見をいただき、今後に取り入れていきたい。 ・アンケート結果及び自由記述への回答はホームページで公表を行う。 |
| <p>④ 安全対策の見直し</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画及び危機管理マニュアルを見直し、気象に対応できる内容にしていく。 | <p>B</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・不審者対策として、正門側門扉の開放時間を送迎時間内に制限(8時半から 9時/14時から 14時半)することとした。運動場側は、大学正門でのチェック態勢が整っておりこれに従う。 ・学校安全計画を見直し、薬剤師からプール遊びの水質管理指導を受け、毎回測定(使用前中後)を行った。 ・園児へのアレルギー対応を徹底し、管理栄養士と調理員、保護者との連携を密にし、メニューと食材、配食内容のチェックを実施した。給食時(特にパン給食)には、園児間の距離を確保して飛沫予防に努め、教師が近くで見守りを実施した他、預かりのおやつ時にも同様の対応を行っている。 ・危機管理マニュアルを見直し、立岩川洪水浸水想定への対応を追記し、水害を想定した避難訓練を実施した。次年度は、第 2 次避難場所までの避難経路を確認したい。 ・引き渡し訓練を年数回実施し、園児を安全に保護者に引き渡すことができる体制を構築しておく。今後は、引き渡せない場合の取り組みや備蓄品についても考えていく。 ・正面玄関の庇が老朽化し撤去した。大型遊具の板上り遊具に老朽化があり交換した。今後も定期的に遊具等の点検を実施し安全対策を徹底していきたい。 |

| | | |
|---|---|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・ほし組、ことり組の園児ロッカー室が老朽化し、ササクレによる危険も生じたことから、3月に内装工事を行った。 |
| <p>○ 追加項目</p> <p>新型コロナウイルス感染対策を検証する。</p> <p>(※重点追加目標)</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に続き新型コロナウイルス感染対策として全ての行事について縮小や中止等の見直しを行った。 ・行事を実施するにあたっては、その都度感染対策と人数制限を保護者に知らせた。 ・園児の体調について家庭との連絡を密にして共有したほか、緊急事態宣言中は自主登園日を設けて、家庭の判断による登園とし、蔓延防止等重点措置が発令されている県との往来については帰県日を0として5日間の自宅待機制限を実施した。 ・食事の際には飛沫防止パーテーションを各部屋に設置し、黙食を心がけた。 ・園児たちはマスクの着脱や手洗い、手指消毒等の習慣が身につき、年間を通して病気が減じ、安定した園生活を送ることができた。 ・オミクロン株は感染力が強いことから、職員や保護者が濃厚接触者とならぬよう注意喚起を呼び続け、家庭から園に持ち込まぬよう保護者へ再協力の依頼をした。 ・小学校接続において、交流は少なかったが、教育相談等個別の対応が必要な園児に対しては、担任が各校へ出向き、または電話により引継いだ。 ・縮小開催できた各行事を通して、園児達には自ら活動に取り組む姿があり、達成感や自信に繋る成長がみられた。 |

3-2. 評価項目の達成及び取り組み状況（その他）

| 評価項目 | 結果 | 取り組み状況 |
|--|----|---|
| <p>⑤ その他</p> <p>II. 地域との幼児教育センターとしての役割</p> | C | <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児と親子の集い「カタリナピッコロ」は、感染対策をしながら実施(14回/年)し、制作展への作品展示や音楽遊びを楽しむことができた。感染拡大により、1・2・3月は中止し、おひなまつり発表会への参加も中止とした。「コロナ禍での貴重な遊び場となった」との声があった。 ・昨年度中止とした「もちつき会」を12月に実施し、初体験の年少・年中児は、もちつきの過程や匂い、音、つきたてを味わう姿があった。2年ぶりに祖父母の会「孫まごクラブ」の協力が得られ、交流を楽しめた。「お正月遊び」は、オミクロン株の感染拡大により教員と園児のみで実施した。 |

| | | |
|-----------------------|---|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で幼保小連絡協議会や地域の小学校との交流会も減じたが、各小学校と連携し引き継ぎを行った。 ・長年交流を続けてきた特別養護老人ホーム聖マルチンの家の訪問も2年間ストップしたままであり、入所者との交流による子どもたちの学びの機会が減って残念に思う。 |
| ⑤ その他 IV. 人事管理 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・3年目となる打刻による勤怠管理にも慣れてきたが、残業の減少に結びついていない。預かり保育を利用する園児が増え、放課後の預かり担当(1名)へのサポートに常勤が入る時間が増えてきたことで、クラスの仕事が勤務時間内に終わらない状況となっている。今後の課題としたい。 ・研修は今年度も園内や自宅でのリモートが主流となり、それぞれ受講できた。 ・職員は皆熱心に仕事に取り組む姿が有り継続したい。 ・3月に常勤教諭1名が退職したが、園児数の減少と財務管理上補充は行わず、現体制で役割を分担して教育を継続していく。 |
| ⑤ その他 V. 財務管理 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・新制度への移行により、令和3年度は利用定員を45名としたが、年度末には47名の在籍園児数となり、定員を満たすことができた。 ・次年度は39名からのスタートで、厳しい財政状況となるが、利用定員を45名に設定し、この数字に近づけるよう2歳児や満3歳児の募集を続けていく。 ・バス利用園児の減少により、1月から園バスを2台から1台に減じ、2便制にして運行をおこなっている。 ・毎年、監査法人(公認会計士)による会計監査を実施しており、財務管理は適切に処理できている。 |
| ⑤ その他 VI. 評価と情報の公開 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の「学校関係者評価」を5月に公表した。各教員は自己評価を通して自分の課題意識を持ち、年間を見通した取り組みができつつある。 ・令和3年度の「学校関係者評価」を令和4年2月に受け、4月上旬に公表予定である。 ・今年度から保護者アンケートの自由記述についての園の回答をホームページで公開することにした。保護者の意見に耳を傾け、一方で園の方針を理解いただくツールとしたい。 ・令和3年度よりICT化を導入し、教員の記録(日案・週案・学籍簿等)に利用しているほか、保護者へのメール配信や様々 |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p>なアンケートの集計にも活用し、園と保護者双方の利便性を高めることができている。</p> <p>【50周年関連行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立50周年を迎え、記念式典と祝賀会は中止としたが、記念誌を9月に発刊することができた。その他、人文字撮影(5月)、壁画記念ペイント(7月)、運動会(10月)、制作展(10月)、クリスマス発表会(12月)、おひなまつり発表会(2月)を50周年記念行事として取り組み、感染対策により縮小開催とする中で力を合わせ、各行事を祝うことができた。24名からスタートした創立時の喜びや苦難を現在の教職員で共有し、今後も心を合わせて対処していくことが大切さを学んだ。 |
|--|--|---|

4. 総合的な評価結果

| 評価結果 | 理 由 |
|------|--|
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は教育課程や危機管理の見直しをおこなった。コロナ禍の危機の下でいかに子どもの学びを保証していくかを考え続け年間を通して難しい選択を強いられた。 ・各教員が本園の教育課程にどのように取り込み、子どもの発達を見極めた遊びが提供できているかを園内研修等で見極め、互いに切磋琢磨してそれぞれの保育を検証していく必要があると思う。 ・令和3年度より、2歳児の受け入れを開始し4月より1名の入園があった。教員一同は、2歳児の成長に目を見張り、受け入れることができることを確信した。多くの2歳児に入園していただきたいと思っている。 ・全職員で保護者への対応を丁寧に行うことを心がけ、アンケート結果にも反映できたことは良かった。 ・本園は令和3年4月から、子ども・子育て支援新制度における「施設型給付の幼稚園」に移行し、1年が終わろうとしている。新制度では利用定員を定めることができ、小規模園でも維持していけるのではないかと期待を持っている。 ・最重要課題である園児募集について、令和4年度は39名からのスタートとなり、利用定員の45名に近づけるよう、これまでどおり「心の教育」を中心に一人一人の育ちを丁寧に捉えて援助を続けていくことができる本園の良さをアピールしていく努力が必要である。 ・今年度も大きく成長した19名の園児を送り出すことができた。 ・リモート研修が主流となる中、職員の学びが身近でできる利点もあり、各教員が可能な範囲で研修を受講するようにした。 ・伝統を引き継ぎながら新しい時代に対応できる園となっていけるよう、また、本園が地域に愛される園となっていくため、園内外の関係者から忌憚のない評価をいただき、今後の園運営の改善に生かしていきたい。 |

※上記「3.・4.」の評価結果の表示方法

| | |
|---|------------------|
| A | 十分達成されている |
| B | 達成されている |
| C | 取り組んでいるが成果が十分でない |
| D | 取り組みが不十分である |

5. 学校関係者評価委員会の評価

1) 学校関係者評価の重点目標の内、今後も継続して取り組むべき事項（**プラス評価**）

| | |
|------------------------------|--|
| <p>評価項目① 教育課程のさらなる充実</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・園の教育課程と特色であるモンテッソーリ教育と宗教教育の融和に努めながら、教育目標の具現化に取り組んでいる様子が分かる。 ・幼少連携の視点から「10の姿」という具体的な観点を設定し、発達段階に応じた具体的な児童像に向けて具体的な保育活動を推進している様子が分かる。 ・「こころの教育」を中心とした教育目標に対して、幼児像と教師像が具体的で分かりやすいものとなっており、そこに「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を軸として宗教カリキュラムがリンクされることで「心の教育」に定まった内容となっている。 ・各学年の年間指導計画は年齢や発達に応じて作成され、週間指導計画も、担当教諭による日々の保育計画や振り返りが細やかになされ、今後の課題や工夫等の記述から次の日の保育環境に活かされる内容となっている。記録には縦・横・10の姿が具体的にフィードバックされ、それらが教師のチーム力となり子どもや保護者が安心できる教育環境となっており、大きく評価できる。 ・各教員の自己評価において、自身の業務を真摯に振り返り、より良く改善していこうとする向上心や責任感が強く感じられた。 ・教育課程を念頭においた計画、実施、分析を細やかにしており、質の高い教育課程だと思う。子どもの園生活や行事を見聞きした限りでは充実したものであると感じている。 |
| <p>評価項目② 園児募集力の回復</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の時代と保護者の生活様式の変化への対応等、非常に難しい状況ではあるが、伝統ある園の良さを大切にしながら、積極的な周知活動や教育活動の充実を進めていくことが必要だと感じる。 ・令和3年度の入園児減少について細かい分析ができており、次年度に活かされる取り組みが考察されていた。 ・保護者アンケートに「親も通ってみたい素晴らしい幼稚園なので多くの子どもに入園してもらいたい」という意見が有り、評価委員としても同感である。園訪問の際に、子どもたちの笑顔や主体的に遊び込 |

| | |
|---------------------------------------|--|
| | <p>める姿を目の当たりにし、安心できる保育環境や専門的な幼児教育の素晴らしさ等を痛感できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や困り感を感じている保護者が安心して通える園となっており、どの園児にも活躍できる場や成長が見られ、子どもや保護者に寄り添うことができる園として園児募集においても強みとなる。 ・新しく2歳児クラスを設けるなど、募集の回復に努力している。 |
| <p>評価項目③ 保護者満足度の向上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの導入や保護者とのコミュニケーションを大切にしながら、子どもたちの心身における健康管理・相談の充実を図っていることが、保護者との信頼関係の向上につながっていると思う。 ・保護者アンケート内容が分かりやすく改善されており、回答率も90パーセントに上昇して自由記述も増えたことにより、保護者の満足度につながっている。 ・アンケート集計が分かりやすく前向きな自由記述も多く、保護者と園の信頼関係度もアップしている。 ・自由記述について保護者からの要望に対し丁寧に回答しており、保護者が安心できる内容となっている。 |
| <p>評価項目④ 安全対策の見直し</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの見直しや不審者対応など積極的に危機管理の具体的な動きが見られる点が素晴らしい。 ・令和3年度の学校安全計画や危機管理マニュアルの見直しでは新型コロナウイルス感染対策に向けての改善点が的確に組み込まれ、園児や保護者が安心できる計画や管理状況となっている。 ・危機管理において、日々の点検を実施し、遊具等を含む環境保全に務めることができている。立岩川洪水想定への対応の追記もあり、より具体的なマニュアルとなって安心できる。 |
| <p>(追加項目) 新型コロナウイルス感染対策を検証する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での行事等では感染対策をしながら縮小や参観等の工夫がなされ、保護者が安心して子どもたちの成長を確認することができている。各行事では縮小された中であっても子どもたちの表現は素晴らしく感動的であった。 ・コロナ禍での行事への対策を事前に保護者に伝えるとともに、実際においても安全に安心して見学できる工夫や備えが充実していた。 ・創立50周年の記念誌発刊をはじめ、どの行事にも50周年を祝う内容が組み込まれ、古き良き伝統の継承を園児と教師がともに学びあえる幼稚園であることに深く感動することができ、お祝いできる場に立ち会えることができ良かった。 |

2) 学校関係者評価の重点目標の内、今後、改善・解決に向けて取り組むべき課題（今後の課題）

| | |
|-----------------------------|---|
| 評価項目① 教育課程のさらなる充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・良い環境が整っており、今後も質の維持に努めて欲しい。 ・教育課程とモンテッソーリ教育の融合について、普段園で実施している内容を教育課程に入れ込む具体的な文言等の指導や助言をいただいた。 |
| 評価項目② 園児募集力の回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代の保護者の子育ての背景や情報源、そして仕事や家事の大変さからくる愛着面の悩み等の実態を把握・理解しながら、園の良さやアピール等、自信を持って宣伝して欲しい。 ・ホームページはわかりやすく親子で楽しめる内容と感じている。一方で、SNSの普及により子育て中の情報が拡散しつつある時代となり、若い先生方を中心に情報アップの研修をして保護者以外にも周知できるような努力も必要ではないか。 ・モンテッソーリの教具や遊びは、乳幼児期の発達を捉えた魅力ある遊びの環境であり、SNSで多くの母親が活用しているインスタグラムでは、おうち遊びや子育てに活かした内容の情報等がアップされている。今後アピールの工夫次第で園児増加につながるのではないか。 ・2歳児の受け入れやカタリナならではのメリットをもっとアピールして周知し、入園につなげてほしい。 |
| 評価項目③ 保護者満足度の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・困り感を抱えた子どもやその家族の支援、特別支援教育や発達支援に対してスキルが高く手厚い園であり、小規模だからこそ実現できている。自信を持ってアピールして欲しい。 ・引き続き丁寧な対応を心掛けてほしい。 |
| 評価項目④ 安全対策の見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・遊具については、その遊び方について具体的な指導を実施することで事故防止に繋がり、特に老朽化した遊具については、外部専門家による保守点検が必要だと感じる。 ・遊具、設備の点検等は特に気をつけてもらいたい。 |
| 追加項目 新型コロナウイルス感染対策を検証する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染者が出た場合のシュミレーションも必要ではないか。 ・引き続き感染対策の徹底をお願いしたい。 |

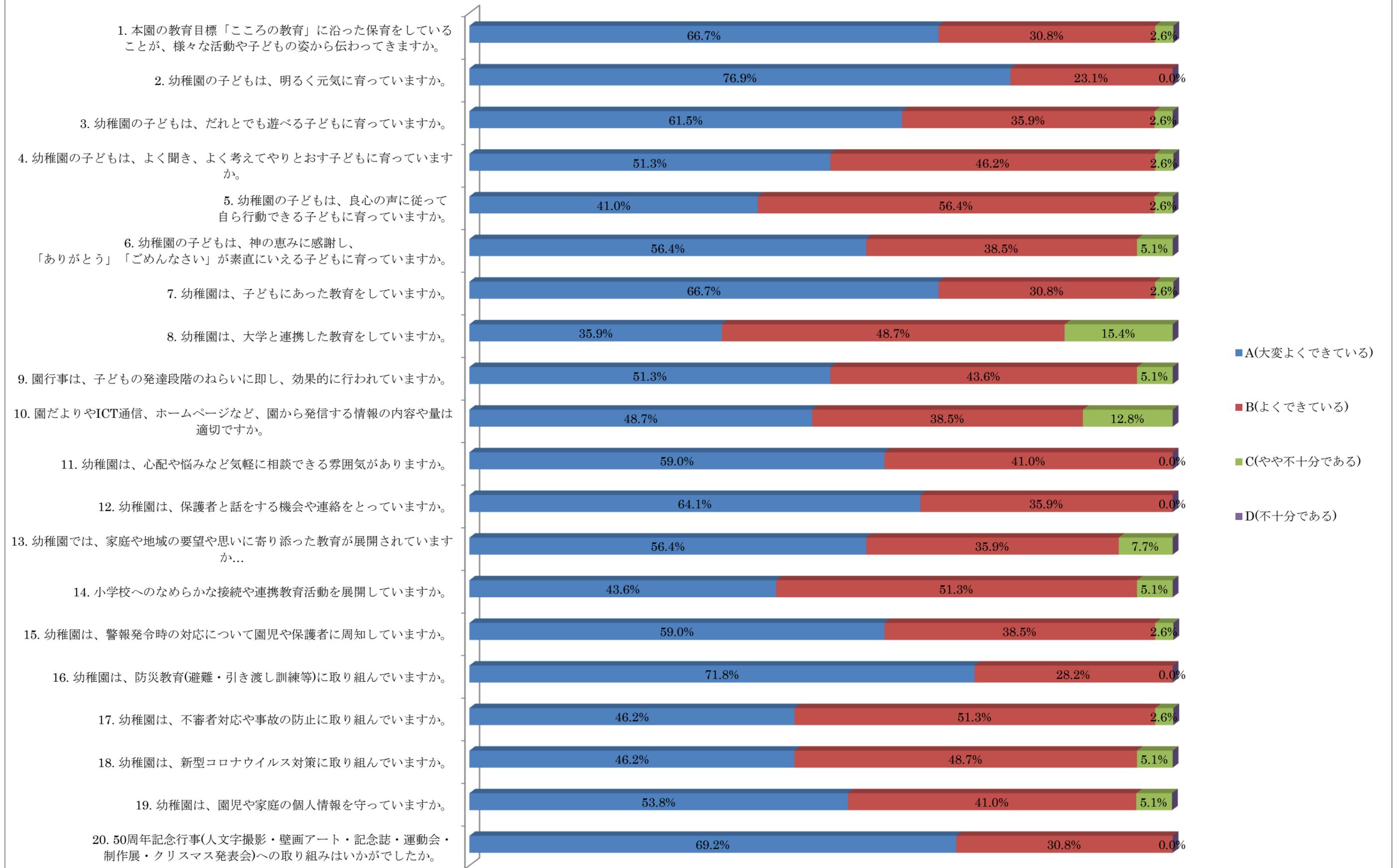
6. (1.~5.を踏まえて) 今後本園が、重点的に取り組むべき課題 (次年度の課題)

| | 課 題 | 具体的な取り組み方法 |
|---|-------------------------------|---|
| 1 | 園児募集対策 | <p>①本園の教育のアピールの仕方を考え、情報社会を活用した宣伝を取り入れながら社会に周知していく。</p> <p>②2歳児と満3歳児の入園が広がるよう取り組み、利用定員の45名に近づけるよう努力する。</p> <p>③保護者アンケートで示された園児募集のアイデアを活かしていく。</p> |
| 2 | 教育課程の内容と日々の保育を各教員が検証する | <p>①各学年の年間指導計画を基に学期、月案、週案を計画し、教員相互での検証を通して、互いの学び合いからスキルアップを図っていく。</p> <p>②やさしい心、感謝の心、祈る心の育成を念頭に日々の生活を送り、教員自ら行動モデルとなれるように関わって、本園の教育目標である「心の教育」を育む。</p> |
| 3 | 伝統を継承しながら小規模園としての取り組みを活かしていく。 | <p>①総園児数が縮小する中であっても、少人数を活かした教育となるよう工夫し、これまでの伝統や教育を維持できるようにしていく。</p> <p>②縦・横5クラス編成(2歳・満3歳・3歳・4歳・5歳)の中で、協力できる取り組みを構築し、発達を捉えた一人一人の育ちを丁寧に援助しながら異年齢での関わりを深めていく。</p> <p>③園児や保護者に対して丁寧な取り組みを続け、相互理解を深めることで本園との信頼関係を構築していく。</p> |
| 4 | 新制度への移行2年目を検証する。 | <p>① 本園は令和3年度に新制度に移行したが、初年度の検証を踏まえ、令和4年度への布石として歩いていくことができるようにする。</p> |

資料4 ① 令和3年度 保護者アンケート 集計結果

別紙資料参照

資料4 ① 令和3年度 保護者アンケート 集計結果



資料4 ② 令和3年度 保護者アンケート 自由記述と園からの回答
(記述内容の近いご質問をまとめて回答しています)

○ 預かり保育について

・共働きの家庭が多いので早朝の預かり時間をもう少し早くしてほしい。

⇒労働基準法に基づいて本園の教員数で勤務時間を運用していくにあたり、現時点で 7:30 開園を早めることは難しいですが、多くの必要性が生じた場合には検討していきます。

・長期預かり中の弁当の回数を減らしてほしい。

⇒本園は大学食堂と契約をしており、預かり利用人数が日々異なる長期休暇中に食数を発注することは難しいです。

○ 給食について

・副菜2品とデザートがあり満足に食べているようです。

・給食参観が無いので、料理の様子や食器、標準の配膳料等をブログなどで伝えてほしい。

・幼児期に合わせた栄養量と献立、味付けになっているのか知りたい。

・揚げ物等、植物油脂の使用を減らして欲しい。揚げ物、パスタ、じゃがいも、マヨネーズの味付けが多い。栄養素も脂質や炭水化物からの摂取に偏っていないか。

・野菜のおかずが増えるとありがたい(野菜苦手の克服にもなると思うので)。

・食べたもので体も心も作られるので給食費が値上がりしても体に優しい食材や原材料を使って欲しい。

・「だしの素」ではなく自然なだし汁で味覚や腸内も整う給食にしてもらいたい。

・味付けやボリュームを保護者が知る機会があるとありがたいので試食会や給食サンプルの提示、献立表の栄養量掲載を希望します。

⇒配食が11時半頃で温かいものを提供していますが、サンプルをその時間に提示して、何人の保護者様にご覧頂けるのかどうかを含め、配信等他の方法も合わせて検討します。

⇒いただいたご意見について管理栄養士と相談をし、できるところから改善します。

○ カタリナ環境について

・園庭での遊びが同じなので、三輪車や、集団でできる遊びなど変化をつけてほしい。

⇒季節により子どもたちの遊びは変化し、また年齢により一人遊びから集団遊びへと変化していきます。教師は、園庭での遊びについて、子どもの気持ちを尊重しながら援助していますが、一番人気は「おにごっこ」です。三輪車は台数に限りがあり、交代できる時間が見込まれる場合には出しています。好きな遊びがさらに展開していけるよう、環境を整えたいと思います。

・園周辺の散歩など取り入れてほしい。遠足の代わりに散歩もして欲しい。

⇒ 良い季節には散歩を実施しています。中止とした遠足に代わり、リュックを背負って学内探索後、園庭でお弁当をいただきました。今後も散歩の機会を見つけていきます。

・保護者会活動の負担軽減

⇒ これまで園は保護者様の負担軽減に努力し、現在お願いしているのは、聖誕劇の衣装替えのみです。今後は役員への就任負担を減らすことができるよう、制作展協賛の「母の会バザー」の中止を考えています。コロナ禍により2年間中止しましたが、ご家族でお子様の作品をゆっくりご覧いただくことができ、親子に笑顔が広がりました。次年度に保護者会の皆様とお話し合いをしたいと思います。

・コロナ禍での実習生の受け入れはかなり心配であった。

⇒ 園長より紙面にて全家庭に回答済み

・保護者アンケートをタブレットですると個人名が特定されてしまうので、以前のように匿名でのBOX投入形式が良い。個人が特定されると書きにくい。

⇒ 自動的に集計しますので、個人が特定されることはありません。

・行事が近くなるとその練習と少しの外遊びばかりとなっており、他のことも入れてリフレッシュさせて欲しい。特に聖誕劇はリラックスして楽しくさせて欲しい。

⇒ どの行事も子どもたちが楽しんで取り組めるよう配慮をしながら進めていますが、大ホール舞台上で緊張感を抱くことは全園児が経験しています。子どもたちは各行事をやりきった時の達成感により、一人一人が何事にも自信を持って取り組む姿へと大きく成長し、安定した姿で就学を迎えることができますので、行事は、個々への配慮を続けながら、本園の大きな特徴として続けていきたいと思っています。限られた保育時間の中での練習により、遊びの時間が少なくなっているのはご指摘のとおりです。特にこの2年間は、聖誕劇練習と重なる自然との関わり（さつまいも・じゃがいも・みかんがり等）が全て中止となり、それに代わるリフレッシュ活動が不足していたと思います。

・ブログの更新頻度を上げて欲しい。子どもたちの顔を見るとほっこりします。園の普段の様子をホームページだけでなく実際に見ることができる機会が増えれば良い。

⇒ 努力します。

- ・子どもたちが楽しみにしている行事や体育遊びが中止となり残念に思っており、その代わりのものを先生方で補って欲しい。音楽遊びはなくなったのでしょうか。

⇒ コロナ禍の2年間は命を守る選択を強いられ、活動の中止や縮小を余儀なくされました。若い人の感染が拡大してきた時には、学生を伴う体育遊びも中止せざるを得ませんでした。園長は、聖誕劇やお雛祭り発表会の練習過程で、全員の園児と音楽を楽しみ好きになる関わりを続けています。行事とは別の「音楽遊び」は担任から要望があればいつでも対応しています。担任にも子どもとの遊びを広げたい多くの計画があり、大学の先生方も子どもとの遊びを専門的に行っていきたいと考えていただいています。子どもたちがいろいろな分野で遊びを広げて全人的な育ちとなるよう、これからも教育的バランスを計画して実施していきます。

- ・先生方の言葉使いが丁寧で、声掛けがポジティブなところが良い。ちょっとした相談もしやすい。先生方が保護者にも子供にも優しく丁寧に接してくれる。
- ・子どもの気持ちを尊重し、子どもたちを信頼して「やってみようか」と前向きな言葉をかけてくれる。
- ・広々とした園庭と大きな木、草花、山やトンネルの環境、土や草や虫に触れ合える場所が園庭に有り、子どもにとって良い環境である。
- ・入園して、期待を大きく上回る良さを知り驚いた。良い先生方や環境に恵まれた中で日々を過ごすことができ、それを反映して園児たちものびのびとして元気で、とても優しく育っていると感じている。
- ・子どもたちは毎日園に通うことを楽しみにしており、先生方のご指導のおかげです。
- ・毎日外遊びや音楽遊び、制作などいろいろなことをする経験が多彩で、楽しく通っている。毎日安心して預けることができる。

○ 園児募集について

- ・ポスターを見ただけで2歳児から入園できることがわかるように。3歳からというイメージが強い。
- ・ブログを通してモンテッソーリ教育の様子を伝えると旧市内からも魅力を感じ通わせたいと思うのではないかな。
- ・大学との連携教育や体育館での運動会、大きな舞台での発表会、課外活動の実施など、教育面の良い所を強くアピールしてはいかかがか。
- ・大学、短大との関わりを強め、専門教育（福祉・音楽・絵画・体育）などの遊びを広げ、子どもの学びにつながっていくことをアピールする。
- ・附属幼稚園を活かし、体育活動や食育に一層力をいれカタリナにしかできないことを募集広報に打ち出す。
- ・園児たちがのびのびと育ち、優しく育っているカタリナの良さがホームページでは伝

わりにくいのが残念。

- ・入園先を探す際に欲しかった情報は口コミだが、リサーチしてもヒットしなかった。
- ・ホームページの中で、口コミ風に保護者の感想などを入れてアピールする。
- ・卒園児の学童保育の導入等検討いただければ園児募集にプラスに繋がっていくと思う。
- ・産休育休を取得して仕事復帰をする人が増えているので、受け入れの年齢がもう一つ広がれば保護者の選択肢が広がるのではないか。
- ・親も通ってみたかったと思うくらい素晴らしい幼稚園なので、沢山の子どもに入園してもらいたい。
- ・共働きでも利用しやすい幼稚園であり、保育園のときに比べいろいろな経験ができるので、周りにも勧めたい。
- ・ダンスや英語など就学した時に必要なので、今のうちから経験させたい。習い事が多い園は人気だと思う。
- ・バスの広報用紙をもう少し大きくする。

保護者の皆様、貴重なご意見をありがとうございました。次年度に活かしていきます。